

平成29年10月24日

# 産業厚生委員会

(所管事務調査分)

阿久根市議会

1. 日 時 平成29年10月24日(火) 10時00分開会  
15時37分閉会

2. 場 所 第2委員会室

3. 出席委員 仮屋園一徳委員長、白石純一副委員長、中面幸人委員、  
濱崎國治委員、牟田学委員、岩崎健二委員、  
山田勝委員、野畑直委員

4. 事務局職員 議事係主査 大漣昭裕

5. 会議に付した事件  
所管事務調査事項  
(1)道の駅等の活性化について  
(2)集落営農等の農業振興策について

6. 説明員 商工観光課  
課長 堂之下浩子 君 参事 小泉 智資 君  
課長補佐 牧尾 浩一 君 課長補佐 宮本 裕二 君  
係長 東 岳也 君

7. 議事の経過概要  
別紙のとおり

## 議事の経過概要

### 仮屋園一徳委員長

ただいまから産業厚生委員会を開催いたします。

本日は、この後、道の駅関連について商工観光課から話を聞きたいと思います。

午後は、海を活用した観光行政について、旧港にあります有限会社梶原シール商会が所有するグラスボートを見学し、その後、出水市の鹿児島いずみ農業協同組合に行きまして農業振興策の調査で飼料米などの営農について話を聞きに行きたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

[「異議なし」]

異議なしと認め、そのように決しました。

それでは、まず初めに「道の駅関連について」調査を行います。

商工観光課の入室をお願いします。

(商工観光課 入室)

### 仮屋園一徳委員長

商工観光課に出席いただきました。

本日は、道の駅阿久根の整備計画の考えや道の駅阿久根と新しい道の駅との関係性について話を伺いたいと思います。

それでは委員から質問をお願いします。

### 中面幸人委員

例えば、新しい高速道路にできる道の駅の話やらある中でですね、現在の大川の道の駅について、別にどうのこうのという話はないんですよ。今のところは今の道の駅でしっかりとやっていくというのは変わらんわけでしょ。その辺の見解は執行部としてはどのように思っているんですか。

### 堂之下商工観光課長

既存の道の駅阿久根につきましては、一応そのままということで考えております。新しいサンセット牛之浜の道の駅とは差別化をして、地域に密着した道の駅として道の駅阿久根は残していくという形で今、考えているところでございます。

### 中面幸人委員

そういう考え方であれば、それなりにですね、やっぱりしっかりとした方向性をですね、今後していくべきだと思いますので、そういう考え方でまた質問させていただきたいと思います。

### 山田勝委員

今、中面委員の質疑の中でもね、言われたとおり、私もいつも思ってるんですが、10年先にできるかできないかわからない議論を今したところで始まらないというのが一つですね。それから道の駅阿久根が20年を経過して、非常に老朽化している。そして潮風ですね、建物そのものも非常に危ない状況になっているということで、改築する、改装するというのが喫緊の状況だという形で私は質問をしたりお願いをしたりしているわけですよ。そういう状況を今、お話しましたけれども、そういう形で受け止めてい

らっしゃいますか。

#### 堂之下商工観光課長

やはり老朽化が激しいというのと塩害、塩による害も大きいですので、今、都市建設課の技術の方にも見ていただいて、どういうところを改修すべきかというのは今、検討しているところでございます。やはり予算の範囲内ということになりますけれども、どこまで対応できるかわかりませんが、いろんな改修をしながら、利用者にとっていいものになっていかないいけないというふうに考えているところです。

#### 白石純一委員

今、山田委員のこととも関連するんですが、既存の建物を、これまでの本会議や委員会でも出たとは思いますが、既存の建物から国道3号線までの間のスペース、これはたまに車が通過するだけのスペースで、有効利用されていないと思うんですが、そこまで建物を、国道3号線のところまでですね、拡張するという事は法規制的に可能なのかということが1点。そして、あるいはそれを、じゃあ既存の建物を使う、あるいはそれを残す残さないは別にして、2階建てにすることは可能なのかということが2点目。

#### 仮屋園一徳委員長

できれば一つずつ。

#### 白石純一委員

では、まず1点目からお願いします。

#### 宮本課長補佐

1点目の法規制についてなんですが、国土交通省の敷地になります。3号線ということで、道路交通法の絡みでお話を聞きました。おっしゃるとおり、あそこの前はですね、納入業者さんとか駐車場に停めるのが遠いなという方が停められている場合が多いです。私たちのほうも締切ができないかということで国土交通省に問い合わせをしました。通常、店舗をされている方、御存じのとおりですね、道路交通法の中で縁石ですね、どれだけ車が道路から出入りできるかという幅を設けるというところで、通常の人家であれば4メートル、ガソリンスタンドで非常に大きいトレーラーが入るところで12メートルまで広げられるんですが、あまり箇所数が多すぎると出たり入ったりが非常に多くなるということで、あそこを締め切った場合に、交通車両の動線がどうなるかということで、手前のほうに開け口をつけて、また出れるようにすればいいんじゃないかということで国土交通省さんのところに伺いました。結論としてはですね、今のところ開け口をもう一個つくるというのは難しいということでした。場所としては、薩摩川内市側から上がってきて、阿久根のほうに上がってきてあそこの前を締め切ったときに出口をつくらないといけないんですが、出口をつくったときに信号交差点と近いということと交通量の多い中、お客さんがたくさんいる中で出入り口をさらにふやすというのは今のところ危ないのではないかとということで、道路交通法の関係からはですね、そういうふうに言われました。以上です。

#### 白石純一委員

では2点目、その今のアクセス、進入路、退出路と関わってですね、今の道の駅の建物の川内よりの駐車スペースのさらに尻無より、川内よりに同じ幅で空き地がさらに数百メートルありますけれども、そちらのほうまで駐車場を拡張するという事は可能なのでしょうか。そうすれば、先ほどのアクセス、退出路の問題も多少状況が変わってくるのではないかとおもいますが。

### 宮本課長補佐

手前側の空きスペースなのですが、出入り口の侵入の関係ですね、がクリアできればあとは交差点をどういうふう処理していくか。今、斜めに入ってる場所なんですけど、手前のところは確かにスペースがあります。ただ、今、あちら側はですね、大型車が停めるスペースを一応は国交省さんは考えられてて、大型車を配置、ラインがちょっと消えてますけど、そういう中で、あちらの芝生のほうにですね、小型車を停める場所をつくるのかどうか、大型車が入るとですね、多分出れない、展開できないと思いますので、大型車の配置も変えて普通車の配置を変えればできないことはないかと思うんですが。

### 白石純一委員

ごめんなさい、ちょっと私が質問していることは、ちょっと違うと思うんですが、今の駐車スペース、川内よりの海沿いの駐車スペースのさらに川内よりに2、3百メートル以上、

### 宮本課長補佐

そうです。出入り口がですね、皆さん御存じのとおり川内から走ってきたら、こう入るようになってるんですね。逆側に回れるようにできてないんですね。ですので大型車は展開できません。あそこの入り口から、白石委員がおっしゃっているところは入れません。大型車はこう入って、店の前を出て、出ていくという形になっているので、交差点処理がですね、できないと。普通車のみ限定で芝側に、南側に回ればですが、今、誘導としては南から上がってきてこう入る、南から入ってきてこう出るという形で、T字にきれいになってないので。

### 白石純一委員

南側からのアクセス路をもっと手前の尻無側に設けて、今空いている空き地部分を使うということはできないでしょうか。

### 宮本課長補佐

国道3号自体に、今、T字交差点が連続して山手側のT字とこっち側の道の駅のT字交差点が連続してますので、交差点部分を連続してつくるというのはですね、公安協議が必要になると思います。必要に応じては信号処理等をもう一箇所入れないといけないような状況になるかもしれません。まだ検討してないのでわかりませんが、技術的には絵は描けると思うんですが、あとは公安委員会または国交省との、道路管理者との協議になると思います。

### 白石純一委員

3点目なんですけれども、先ほどちょっと申した、既存の建物を使う、使わないは別にして、あそこ、あるいは国道沿いまで出す、出さないも別にして、建物を2階建てにするということは可能なんでしょうか。

### 宮本課長補佐

4月ですね、ゴールデンウィーク前に建物、駐車場、そして中の物販のものについてまで全て都市建設課と商工観光課で調査をしました。建物については先ほどお話があったとおり、老朽化が進んでおまして、水切りとか鉄骨のさびがひどいです。屋根の部分にも登って調査をしております。どの辺がさびていてどこが老朽化というところで見えます。その中で全体として敷地の調査もしました。海側ですね、ブロック自体が沈下してます。単純に2階建てにできるかというのはですね、調査をしないとわからないと思います。ただ、今の護岸自体もですね、既にちょっと沈んで、ぺこっとなってい

るところがありますので、そこの調査をした上でとなるんですが、もう一点調査をしたのが法規制についてです。皆さん御存じだと思うんですが、私、ちょっと知らなかったんですが、旧JAのほうの法面のほうがですね、昔、災害があつて崩れております。土砂災害の防止法がかかつておまして、斜面の高さから離さないで建物ができませんので、山手側には建物ができない状況にあります。しっかりと法面对策工事を終らせたなら山手側もできると思うんですが、すごい長い斜面ですので、あそこの工事をするのはすごいお金がかかると思います。そうなってくると、おっしゃったとおり海側の工事ができるかどうかというところになるんですが、国道3号近くまで土砂災害の防止法の線が来ていますので、法律関係もですね、クリアしながらということになってまいりますので、関係部局との調整が必要になると思います。

#### 仮屋園一徳委員長

いいですか、ほかに。

#### 牟田学委員

営業的なことですね、わかっていれば教えていただきたいんですが、いけば去年の分ですね、売り上げと従業員の人数を教えてください。

#### 堂之下商工観光課長

直売所の売上高ですけれども、すみません、約でよろしいでしょうか。

[牟田学委員「はい」と呼ぶ]

約1億2,400万円、平成28年度が。従業員は13人でございます。

[牟田学委員「わかりました」と呼ぶ]

#### 山田勝委員

今は建物についてとりあえずお聞きいたします。今、宮本補佐がですね、言われることを聞いてますと、例えば左側の駐車場はもう入り口はできないよという話ですよ。私はいつも思ってるんですけどね、国道389からね、今、高速道がついてるあそこね、ハッコーのパチンコ屋にね、考えつかない進入路をつくったんですよ。進入するようにできましたよ。これは檜之浦さんの非常に高度な、政治的な判断、アクションでできましたよ。ですから、私はね、やはりね、例えばそのために予算が必要かもしれない、規制が必要かもしれないというのはやはり本当に必要だと思ったら、やはり市長とかですね、県議とか衆議院とかひっくるめてね、やはり政治的なアクションを起こさないとかなんかと思うんですよ。これでもか、これでもかやって仕方ない場合はあきらめもつきましますけどね、やりもしないで事務レベルの世界でですね、できませんよというのは自分たちの考え方としてはね、どうも納得できない部分なんです。ですからそういう部分についてはもうちょっと起こしてほしい。それは何でかかっていったら、あそこを閉めてですね、ちょうど物産館、道の駅の前の部分をね、あそこを建物につくらなくてもですよ、あそこを交通の、車両の進入を遮断してですね、あそこで何か商売ができれば、あるいは農産物を置けたとしたら、また違った絵が描けるじゃないですか、違った絵が。だからそこまでやはり考えてくれないと私はいけないと思うんですよ。実はそれはもうちょっと進んで政治的なアクションを起こしてですね、あるいはお金が要るかもしれない、予算が要るかもしれないけど、考えればなんとか方法があるんじゃないかということまでね、この際進んでほしいと思いますよ。あと10年してあそこが開通しますとね、大きな車のね、大型車の通行が極端に下がってくると思いますよ。そういうことも考えてやはりする必要があると思うんですが、ぜひそれはそれとして捉えてほしいと思うんですが。いかがなものですか。

## 堂之下商工観光課長

今、山田委員がおっしゃったことをしっかりと受け止めて努力していきたいと思います。

## 山田勝委員

ぜひね、それはしてほしいと思います。そうしたら南側の駐車場と北側の駐車場とですね、国道を挟んだ向こうの駐車場とですね、私は十分、100台ぐらいのね、駐車ができるようなスペースができる可能性があると思いますよ。ですから精一杯努力をして、考えて努力をして、努力をしてですね、できない分は仕方ないですよ。でも、やはり阿久根市と一緒に考え、お願いした分についてはね、それはやってほしいと思いますよ。ということですから、課長、よろしくお願いします。

[堂之下商工観光課長「はい、了解しました」と呼ぶ]

それと、宮本補佐が先ほど言われました、例えば護岸がね、出てるから、例えば2階に上げるための強度が保てないのじゃないかということで、調査してみらなわかんということですよ。だから阿久根市がね、市長も言われましたけれどもね、海を埋め立てるとするのはね、阿久根市がする工事じゃないしね、海を埋め立てるとなったらすごい金が要りますよね。ですから、建設省の施設として海に埋め立てとか補強というのはしていただかないかんわけですね、これはやはりね、政治的なアクションが必要だと思いますよ。阿久根の陳情項目の一つとしてですね、国交省に上げるとかそれぞれのところをお願いするとかしないかね、阿久根市ができる仕事じゃないと思いますよ。だから、そういうことで、もしそういうふうにさせていただきますと2階に上げて、食堂は2階に上げられるよという一つの絵が描けるじゃないですか。せつかくね、やろうというんですからね、今後また20年、30年、手はつけられないんだったら、やはり思い切って絵を描いてね、思い切ってやらないかんと思いますよ。ですから、何か道の駅に、物産館道の駅に対する調査については終わりましたよね、終わりましたね、去年。ですから、今、あなた方が言うように、あそこを何かせないかんという状況の中ですからね。大きな絵を描いてね、チャレンジしてほしいと思うんですよ。これは僕の考え、皆さんもおっしゃってください。

## 中面幸人委員

改修するにはですね、やっぱり相当予算も要ると思うんですよ。そうしたときに、今までのような形の営業のやり方ではやっぱり市民も納得しないんじゃないかなというふうに思っております。自分達、委員会で調査したときに感じたのがですね、例えば阿久根は魚が新鮮だ、魚のまちだということで、やはり阿久根以外の県内の人たちが新しい魚を、新鮮な魚を求めて来る方が多いと。結構、新鮮な魚が売れているという話も聞いた中で、例えば先ほど課長が言われました新しい道の駅と違う形ですね、差別化してやらなきゃならないということでは言われましたけれども、今の時点でそういう差別するような考え方というのはあるんですか。新しく要望している道の駅と区別したそういう、そうしないとやっぱり予算化するにもですね、その辺の違いをしっかりとしないといけないと思うんですけど、今の時点でそういう何か思いというのはありますか。

## 堂之下商工観光課長

道の駅阿久根の物産館の充実ということについては、今回、9月の議会の議論を経まして道の駅のまちづくり公社ともいろいろ話をいたしました。その中で、やはりできるだけ魚の鮮魚をふやしたいということもありまして、漁協から直接買い付けるような工夫もしていきたいということで話を進めているところでございます。サンセット牛之浜

との差別化ということにつきましては、やはり既存の道の駅については地域密着型という形で地域の形を対象にした地産地消の物産館であるべきであろうと考えております。あとサンセット牛之浜につきましては、やはり広域的な薩摩川内市、長島町とも連携をした広域的な物販もあったり地域間連携を図っていく設備になっていくということで考えているところでございます。

#### 濱崎國治委員

今、既存の道の駅と新しい道の駅の差別化ということで、地域密着型ということでの考えもあるということですが、地域密着型というのは既存のところを、大体阿久根市民を対象にしたようなという考えですか。

#### 堂之下商工観光課長

やはり阿久根市民に利用していただかないと道の駅の存続というのは難しいというふうに思っておりますし、また大川地区が、買い物ができる場所が少ないというのがありますので、そういった買い物の拠点にもなり得るというふうに考えております。また、国道3号を通る観光客の方々のゲートウェイでもあるというのは確かでありますので、観光の南側の拠点ではあるわけですが、阿久根市内とそこを立ち寄られた方とをつなぐ一つの拠点ではないといけないというふうには考えております。その一方で、地域の方々が普段使っていただけるような道の駅になるべきであろうというふうに考えているところです。

#### 濱崎國治委員

私はちょっと考えは違うんですが、そもそも20年前の道の駅の設立というのは確かに3号線利用者にとってあそこを活用してもらおうということですね、活性化につなげようということで阿久根の物産はあそこで購入してもらったり食事をしてもらったりということだったんです。今の道の駅の全国的な使われ方というのは、地域もですけども、多くの方々がほかの市町村から、あるいは鹿児島県内あちこちから、あそこの道の駅に何かを買いに行こう、あるいは食に行こうとかですね、そういうことで道の駅の営業の形態というのがですね、違ってきたとおもうんですよね。あそこの道の駅にきょうは時間があるから行ってみようとかですね。そういうことで、ですから私はあそこを拠点にして地域住民というよりも交流人口をふやして活性するということですね、あそこをぜひそういうのでないと鹿児島県内ほかの道の駅を見ればですね、ほとんどそういう形態になってきてるんですね。広い駐車場をつくって、地域の産物をたくさん陳列して販売していくというですね、そういう形態、あるいはそれに付加価値をつけてちょっと遊ぶところをつくろうかというですね、今の道の駅ではあんまりないですけども、広さの関係もあって。そういう付帯設備をつけてあそこの道の駅阿久根に行こうじゃないかというですね、そういう形態になってると思ってるんです。それからすれば、地域密着型というよりも、新しいところはもちろん自動車道を使われる方ののが中心になるでしょうけれども、今の道の駅はそういうふうにする必要があると思うんですけども、いかがなんでしょうか。

#### 堂之下商工観光課長

確かに交流人口をふやすというのは大事なことであります。ただ道の駅の存続という点を考えるときにですね、やはり地域の方々がしょっちゅう使いに来てくださる、そういうことで成り立っていくんじゃないかなというふうに考えているところです。小さな商圈の中で物販をしていくというのにも必要かなというふうに考えています。そういう中で、そこに目新しい物をつくっていけばよそからも来ていただけますし、今もうに井祭



り、伊勢えび祭りをやっていますと、やはり食堂の利用者はかなりふえてますので、そういった意味でいろんな目玉商品はつくっていく、そういう中で交流人口はふやしていかないといけないんですけれども、リピーターをふやすという意味では地域、周辺住民の方々に使っていただくというのが大事ではないかなというふうに考えています。

#### 濱崎國治委員

じゃあ、今の道の駅阿久根の利用者の市外、市内、あるいはそういうのを調査されたことはあるんですか。

#### 堂之下商工観光課長

観光まちづくり戦略をつくるときに調査をいたしました。平日の7割が阿久根市内の方でございます。休日は市外が多くなっております。

#### 濱崎國治委員

と言いますのはですね、先ほどから出ているとおり、売り上げが1億2千万ちょっとですね。そういう中で、あそこの道の駅をもっと拡充する方法としては物販スペースを広げる必要があるんですね。地域の生鮮食料というよりも、あそこは箱物があつたり市外のがあつたりとかですね、そういうことで、じゃあ地域の農林水産物とか広げて売り上げを伸ばすには物販スペースを今より以上にする必要があると思うんですよ。だかたさっきから出ているとおり、2階にしたらどうだとかあるいは前のほうに拡大したらどうかという論議があるんですけれども、一つの方法はレストラン部分も全部物販スペースにすれば、倍に広がりますのでかなりのスペースになるんですね。それはほかの道の駅でもですね、そういうふうにしたところがあるんですね。形状を見たところが、ここは食堂の椅子が並んでいたんじゃないかなというところに物販スペースをしてある。それは利益誘導というのもあるんですね。物販スペースをしたほうがレストランよりも利益が出るんだというんですね、そういうことは考えられないですかね。

#### 堂之下商工観光課長

今のところ、拡充というところまで行ってませんので、今の施設をどう有効活用するかというところを今考えているところでございます。また、今の道の駅については、レストラン部門での収益というのが今、大きくなっています。今の現状では、物販よりは、物販スペースについては私たちもまだ改善の余地があるというふうに考えておりますので、そこは陳列方法についたり飾り付けについたりとか、そういったいろんな小さいリニューアルをしながら工夫を重ねてもうちょっと物販がもっとうまくいくようにできないかということは今、考えているところでございます。

#### 濱崎國治委員

今、食堂部分の利益のほうがいいという話ですか。

[堂之下商工観光課長「はい」と呼ぶ]

私は食堂部分の利益というのは人件費からして、スペースからしても物販のほうはマイナスにはならないんですね、これは委託販売ですので。でもレストラン部分については、私はそう利益は出てないんじゃないかなという気がするんですが、そこは意見の相違がありますので、そこは調査されればですね、レストラン部分が売り上げがどれだけで人件費や食材がどれだけで、対する従業員がどれだけだからという、そういうのもあるでしょうけれども、物販スペースを広げるということでの論議がいろいろあるんですが、当時公社でですね、阿久根側の駐車場に、2階にレストラン部分を移したらという構想を持ったことがあったんですね。それで下のほうは、今、障がい者の駐車場がありますので、障がい者とか高齢者の1階は駐車場にして、2階部分にレストランを上げる

という構想を持ったことがあるんですよ。それは今よりも、当時の論議として2階部分はどうしても増設できないだろうという、あるいは今の物産館の前の、先ほど論議になっている通路も、あそこは障害者の方もちょっと乗せてきてすぐ出入り、あるいは納入業者、あるいは利用者が向こうから入った分がその前を通過するという動線の関係もあって、という話で、それから障がい者への通路にもなっている部分があるものですから、車椅子のですね。そういう意味からして、どうもできない。では、どうするかということで、では阿久根側に2階部分だけを、レストランだけをなおして、下は駐車場にして、既存のところのレストラン部分に物販を広げればですね、今よりも倍のスペースで物販が、いわゆる厨房とかレストラン部分のですね。そういう構想を持ったことがあるんですが、しかも財源としては農林水産業の関係とか、当時宝くじの事業があったものですから、そういうのを取り入れてというのも構想したんですが、その辺のところは考えられませんか。当時の見取り図というのは商工観光課に残っているはずですけど、ないですかね。専門の方にですね、見取り図を描いてもらったんですよ。

#### 仮屋園一徳委員長

ちょっと休憩に入ります。

(休憩 10:33~10:37)

#### 仮屋園一徳委員長

休憩前に引き続き、委員会を開会いたします。

#### 濱崎國治委員

そういうことで、とにかく物販スペースをですね、どなたの意見も物販スペースを拡充した安定的な、将来に向かって安定的なということがあるようですので、いろんな方法をですね、検討していただいて、ただ、全国各各地に、あるいは県内でもですね、道の駅は非常に充実しています。付帯設備をつけてですね。あそこの場合は、問題はスペースをいかに確保するかということですので、通りすがりの人とか、あるいは地域の人ばかりではなくて、やっぱり道の駅阿久根に、あそこに行ってみよう、阿久根をとにかく触れてみようということですね、そういうことからすれば私はあえて広くほかの人にターゲットをしたほうがですね、地産地消よりもですね、地域のものを多く広くしたほうがいいんじゃないかなというののほうがいいんじゃないかなと思っているんですが。

#### 牧尾課長補佐

委員がおっしゃるように、顧客ターゲットという意味では幅広く情報発信して受け入れたほうが交流人口の増加という意味でもですね、有効だと思います。ただ顧客ターゲットもさることながら、地域に根差したという考え方の一つには、例えば生産者がですね、大川地区は高齢者も多いですので、おじちゃん、おばちゃんたちが自分でつくった野菜ですとか、そういったのを持ち込んでもらえるようなそういう施設としても有効的にあそこの道の駅を活用していただきたい、そういう生産者側から見た地域に根差したという見方もあるのかなというふうに考えております。

#### 濱崎國治委員

まさしくですね、そこなんです。当初道の駅阿久根をつくるときにですね、生産者に持ち込んでもらって、とにかく地元のものを市外にどういうふうに、阿久根はこんなものがとれるんですよ、魚はこうですよということを仕掛けたんですけども、対応がなかったんですね。しかも魚についてはですね、今、漁業からのそういう体制があるんでし

ようけれども、魚の物販がですね、一番難しいですね。例えば一番いいのは漁業者が持ち込んで、こうこうして朝どれのこうですよというのが一番いいんです。今は、仲買の方が持ち込んでいるんですかね。ほんとは地域の漁業者、農業者が持ち込んで、農業についてはそうなんです。漁業についてはですね、直接持ち込んだら、じゃあ漁業者が水揚げする場合は5%、6%の手数料を取られるんですね。その手数料をどうするかというのは今度は問題になってきたんです。ほかの道の駅でも売っているところはあるんですけども、そここのところは漁協に3%バックしてくれ。ここはこうですよ、2%ですよとかですね、そういうのですね、漁業の場合が一番課題だったんですよ。ですから漁業の生産、いわゆる漁業者からは持ち込めなかったんです。だから仲買からしたというこれまでのいきさつがあるんですよ。それも含めて、おっしゃるとおり地域ののをですね、どっかの物産館がしてらっしゃいますけれども、地域の農家、漁家の人が持ち込んで、それを販売していくというのがですね、情報発信していくのがですね、私は一番いいと思うんですよ。それこそですね、地域の方によって盛り上げてもらう。あるいはそれを市外とかいろんな遠くの方からも、あそこののを、阿久根ののが新鮮なのがあるんだよ。朝どれがあるんだよとかですね。ある道の駅では、朝入れたのが売れ残ったら夕方には全部生産者が引き取るというところもあるんですよ。そこであそこののは新鮮なのばかりだというイメージがついて、えらい集客があるというところもありますので、その辺はですね、全くですね、阿久根市民の農家から、あるいは漁家からですね、したのでというのが一番。ただ水産加工品についてはもちろん生産者ですので、そこは問題ないと思うんですけど。鮮魚の場合ですね、そういうのがありますので、今、仲買がしてらっしゃると思うんですけども、それで応用せざるを得ないのかな。ただ基本的にはそういう補佐がおっしゃったようにですね、それが私は基本だと思います。思っています、私は。

#### 牟田学委員

先ほど営業の話をしたんですけども、今の道の駅の営業に関しては、阿久根市としては手を入れるとか忠告、いろんなそういうのもまでやってるんですか。営業に関して。

#### 堂之下商工観光課長

今までやってきておりませんでした。先日話し合いをしまして、私たちにも口出しをさせてくれというお願いをしたところでございます。実際、自分たちも行ってみて陳列の仕方とかもっと改善の工夫はあると、またデットスペースもあるというふうに感じておりますので、その管理をしていきたいというふうに思っています。

#### 牟田学委員

ですよ。というのが、あるところは従業員3名、4名で6千万以上あげるところもあるんですよ。だから、ここは1億2千万で13名でしょ。やはり工夫が足りないと思うんですよ。あちらの、従業員のですね。だから人間がこれだけおって、もちろんレストランがあるからかもしれないけれども、意識ですか、従業員の意識、それが足りないのかなと思うんですよ。ただやればいよというような考えで。だから今出た施設を改修して広げたりなんやかんやしても、その従業員の意識が変わらないと絶対伸びないと思いますし、そこあたりをまず、その従業員、支配人の意識を変えることをまず第一に考えていかないと、いくら整備をしても僕は一緒だと思うんですよ。なかなか甘えがあるとかですよ、そういうのがあるんじゃないかなと思います。

#### 山田勝委員

今ののね、関連だけだね、従業員の意識は簡単に変わりますよ。今、市長なら市長

がですね、経営形態を変えればいいわけやっで。もうせんどって、経営形態はこうしますよって言えばいいわけやっで、そんなのは簡単ですよ。意識を変える。意識をちゃんとしたのだけ採用すればいいわけですからね、あそこは。ですから、一つちょっと気になってるんですが、例えば道の駅は公益法人でないと経営できないという法的縛りがあるんですか。

#### 堂之下商工観光課長

公益法人でないといけないということはありません。

#### 山田勝委員

そういうことであつたらね、そういうことであつたらもっと厳しい経営方針をですね。これは、市長がそういうふうにするると担当課である商工観光課もそれぞれの人がね、みんなその気になるんですがね、従業員はね、市長がする気がないと全然しませんよ。金をもろなつたっで。お金をもらえるわけですからね。それはそれとしておきましょう。しかし先ほどからですね、濱崎委員の質疑の中で私も非常に気になってずっと聞いてつたんですが、ほんとに阿久根のあそこに行つたら何があるよって、1月には何があるよ、2月には何がある3月には絶対あるよねっていうのをつくりなないとだめだと思ふんですよ。それは生産者をね、私が言ってるじゃないですか、生産者を育成する必要もあるんですよ。あるいはそういう地区を育成する必要もあるんですよ。例えばタケノコの季節ですよ。あそこから阿久根中央線ずっと上がりますとね、もちろん弓木野、尾崎もありますけれども、タケノコの山ですよ。あれをね、生で売るとか、あるいはゆでて売るとかしたらね、それは阿久根しかないですよ。いいものを安く売る。だからそういう舞台をつくってやらないかんと思ふんですよ。だから話も何遍も出ますけどね、大川地区の方々も、老人の方々もいろいろいらっしゃいますけどね、今は例えばほとんどの人がタマネギを苗を買われますよ。タマネギをつくれますよ。野菜の苗をつくれますよ、芋をつくれますよ。そういうのをね、道の駅に出すスペースをつくってくれたら、ひとせきにはいかんかもしれないよ、一年目には簡単にいかないけど、何とか育てないかんという気持ちで一绪にやつたらですね、3年もしたら、4年もしたら育ちますよ。農業については、牛之浜まで入れればですね。西目、牛之浜まで入れれば。それから、あの海岸にですね、佐潟まで行って。何で私こう言うかといいますとね、長島の道の駅にはね、海産物、磯もの、ミナとかね、ワカメとかヒジキとかあるいはトサカとかというのはみんなとりに行って出すんですよ。だからそういうところにもね、目を向けて、阿久根に行つたらこれがあるよ、あの時期はこれがあるよっていったら、もうミナなんていうのはみんなとってきませんからね、私はね、それもすごいことだと思いますよ。それから水産物についてもですね、やはり恐らく20年前は漁協がそういう販売体制になつたと思いますけどね、今はもう漁協は販売する会社をつくつてですね、おりますよ。長島町のだんだんもですね、東町漁協が出しているいろいろやつてますよ。ですから、あそこで一番人気のあるのが魚ですよ。でも阿久根の道の駅阿久根もですね、華アジがあるじゃないですか。あるいはイセエビがいるじゃないですか。ウニがあるじゃないですか。そういうものをね、あそこに行つたら食べられるんだよ、帰り道に買ってこれるんだよという体制をつくれなことはないんだけど、誰も考えもしない何もしないですよ。だから今回こうしてみんなこうして言うてくれることはね、すごくいいことだと思ふんですよ。私は最初はね、食堂を廃止せないかんと思ひましたよ。食堂を廃止して売り場面積を今の倍にすればほんとにいいよねと思つたけど、いや食堂がいい、食堂がいいと言うもんだから、なら食堂を2階に上げてすればあっちもこっちもよかがという気

持ちにね、なっとったんですけれども、でも今のあそこの中は、私は売り場面積に全部したほうがいいと思いますよ。海側のほうはちゃんと開けて、そして魚の見えるような、魚をあちらで、水槽で売ららな、うわ、魚のまちだという気持ちにならないんですよ。だからそこはね、広げてですね、やはり取り組んでほしいと思いますよ、今回は。ということですか。いかがですか。

#### 堂之下商工観光課長

山田委員のおっしゃるとおり、やっぱり農業生産者を育てるというのは大事なことだろうと思っております。特に今、農業、漁業も含めて高齢化してますし、そういう中で高齢者でもお小遣い稼ぎができるのも必要だし、新規就農者に対してその人たちも販売先として道の駅があることも必要かなというふうに考えています。やはりそういうのも含めながら今から一緒になって考えていきたいなというふうに思っています。やはり目玉商品をつくらないといけないと思っています。やはり阿久根の旬のものを出して行って、やはりそれを買いに来てくださる方がいらっしゃるというのをやはりつくっていく必要もあるかなと思いますし、いろんな形を試しながら改善に向けて取り組んでいきたいと思っております。

#### 中面幸人委員

私は阿久根市の全体ですね、観光、そして交流人口振興策ですね、心配していることがあるんですけれども、今こうして既存の道の駅の拡充の話し合いもしております。またそして、今度は牛之浜サンセットの道の駅もありますよね。その中で、例えばまちづくり戦略の中で、たしか新港もしくは旧港辺あたりに、例えば市場をつくるような計画もうたわれている中でですよ、例えば今の既存であったりサンセットの牛之浜のとかですね、こうしてなったときに何かやっぱりまちの中が空洞化するような気もするんですよ。戦略の計画の中に、市街地のほうに新港もしくは旧港のほうにそういう市場みたいなをつくる計画もあったようですが、全体的に考えた場合ですよ、どういうふうに所管課としては思っているのかですね。例えばですよ、私が言うのは、今の道の駅も拡充し、新しい牛之浜のほうにもと、まちなかはどうなるのかなとか、その辺あたりはどういうふうに考えてらっしゃいますか。そうせんとなんかもう高速道路が開通したりすればほんとにまちなかが、人が入ってこないような気もするんですけれども、これは大事かなと思うんだけど、その辺あたりも含めながら考えてらっしゃるのかなと思ってるんですけれども。

#### 堂之下商工観光課長

中面委員がおっしゃる戦略というのはどの部分をおっしゃっているのかちょっとわからなかったんですけれども。

#### 中面幸人委員

5カ年計画とか、ああいう中にありますよね、例えば今、まちづくりをやってますよね。

[堂之下商工観光課長「うみ・まち・にぎわいの」と呼ぶ]

その中にそういうのがうたわれておったと思うんですよ。新港とか旧港に、例えば農林水産物なんかを売る市場みたいなをつくるような計画もうたわれていたと思うんですけど。だから自分的には、今は季節があったり新しいサンセットも要望等が出ておりますけれども、まちの中に人を呼び込むにはやっぱりその辺あたりは大事かなというふうな気もするんですけど、そういう意味でああいう計画もなされたと思うんですけど、その辺を。

## 仮屋園一徳委員長

中面委員、観光面についてなのか商工面について両方合わせて今の現状をどのように考えるか、今後のことについてまちづくりについてどのように考えるかという質疑でいいんですか。

## 中面幸人委員

そうですね、全体的な将来のですね、そういう。

(発言する者あり)

私が言うのは、先ほど言うように結構大きな予算をつけて改修なんかをするわけじゃないですか。そうしたときにそこまで考えてしないと、一つのものをよく整備してもですね、その辺があるから私は話をしてるんですよ。ただ、そこまで考えるべきじゃないですか。

## 東係長

観光面でしたので、自分のほうから回答させていただきます。今、中面委員がおっしゃった市街の空洞化という問題なんですけど、まずそこに向けて阿久根の入り口となる高速に付随した道の駅をどうしていくのか。それに近くある既存の道の駅をどうしていくのかというので、今、一つの方法としてこの道の駅を商工観光課としてどうしていくのかというのを考えているところです。中面委員がおっしゃっていた旧港の活用の方法はフィッシャーマンズワーフとか、そういうことがあったと思うんですが、それについても今後いろいろなほうから見ながら考えていかなければいけないのかなというふうに考えております。以上です。

## 濱崎國治委員

先ほど一部の委員から、おっしゃったようにですね、今の道の駅を拡充するために投資額が一番少なくてやりやすいのは今の道の駅の全部を物産スペースにすることなんです。これが一番投資額が少なくて市内の物販を売るスペースを広げることによって売り上げがふえるですね、そういうのが一番だと思います。もし、レストラン利用者も購入してるから、あるいは物販利用者がレストランを利用する、そういう相乗効果ももちろん期待できるんですが、投資額的にいけばそういう方法かな。あるいはどうしてもレストランというときには違うところですね、レストラン部分を駐車場に関係ないように整備するというですね、それが、だと思ってるんですが、その辺もぜひ検討していただきたいと思います。それからもう一つ、先ほど公社でもほかのところでも運営はできるという話をされたんですが、たしか3、4年前ですね、それを聞いたときに公社でできないような話を聞いたんですが、それについてはほかでもできるということで理解していいんですね。

## 堂之下商工観光課長

先ほどの質問は、公益法人でないといけないのかという質問でしたので公益法人でなきゃいけないということはないという、公社と特定したわけではなく。

## 濱崎國治委員

公益法人でなくてもいいんですね。

## 堂之下商工観光課長

そうです。

## 濱崎國治委員

わかりました。

場合によっては民間もしていいということですか。

**堂之下商工観光課長**

そうです。今まだうちは指定管理をしてませんが、指定管理者として募集する場合は一般からも募集することになるかというふうに思います。

**濱崎國治委員**

国土交通省との契約もそうなるんですかね。

**堂之下商工観光課長**

阿久根の道の駅の場合、最初の物産館の運営はまちづくり公社を前提にしてできたというふうには聞いております。全国的な道の駅の管理者を見ますと、自治体が15%、第3セクターが31%、財団法人に委託しているのが8.9%、指定管理者でJAとか民間会社に委託しているところが44.3%となっております。

**濱崎國治委員**

それからすれば、純粹の民間じゃなくてそういう団体をつくってすればいいという。阿久根市も関与した上で、そういうことですかね。

**堂之下商工観光課長**

やはり指定管理を、もしするとすれば阿久根市としてもやっぱり運営方針をきっちりと、ガイドラインなりつくってそれにそって運営してくださるところを募集すべきだろうというふうに思います。

**濱崎國治委員**

理解しました。

**仮屋園一徳委員長**

ほかに。

**白石純一委員**

もう一つ敷地的な関係で、山側の駐車場、確かに土砂災害の危険はあると思うんですが、駐車場を立体のものにするということは法規制上問題はないんでしょうか。

**宮本課長補佐**

駐車場施設についての建物が立体になった場合は、建築基準的なものになってきますので、別途また検討が必要になるかと思いますが可能ではあると思われま。

**白石純一委員**

コンクリート造でなくてもですね、最近鉄板のような仮設的なものも使われていると思うんですが、それも建築基準法上の規制は受けますか。

**宮本課長補佐**

そちらはかからないと思います。マンションとかについてるようなタイプであればかからないと思います。

**白石純一委員**

別件なんですけれども、新、牛之浜サンセット、仮称、道の駅との関係ですけれども、道の駅で今、国交省に陳情している、国に陳情しているのは道の駅ということで駐車場とトイレを整備していただくということがまず主眼であって、そこに建てる商業施設については基本的には民間もしくは自治体が建てるというのが恐らく国の方針ではないかと思うんですが、その点について阿久根市で現在、商工会議所等を含めてですね、商業施設についてどのようなものにするのか具体的に何か検討されているということはあるんでしょうか。

**仮屋園一徳委員長**

白石議員、今の件についてはですね、そちらの協議会のほうでこれから話し合われて

いくと思いますので、それについてはちょっと考え方ぐらいだったらけど、もしあれば課長のほうで。

#### **宮本課長補佐**

先ほどの濱崎委員からのまた御質問と白石委員のと合わせて、道の駅の登録・案内要綱についてお話しします。道の駅の設置者なのですが、先ほどおっしゃってる物産館というものは案内とかサービスの施設になります。この設置者は条項を読みますと「案内・サービス施設の設置者は市町村または市町村に代わり得る公的な団体であること。なお、案内・サービス施設の管理運営を市町村等以外の者が行う場合は、契約等により道の駅として必要なサービスが確保されるように措置されること」と書いてあります。つまり、道路管理者は物販施設は作りません。物販施設に必要なものについては、市町村または市町村に代わり得る公的な団体が整備するということになります。これが道の駅の登録・案内要綱に載っております。

#### **白石純一委員**

それについて商工会議所を含めて具体的に商業施設について市のほうで特に検討されているということはあるんでしょうかという質問です。

#### **堂之下商工観光課長**

先ほど委員長からもありましたように、今後、協議会のほうで話し合われるということで、市としてまだそこまで協議をしております。

#### **仮屋園一徳委員長**

ほかにありませんか。

#### **山田勝委員**

私は阿久根の道の駅についてはですね、ほんとこんな条件のいい、経営をする側からすればですよ、いいところはないと思ってるんですが、例えば駐車場もね、それぞれふえていますもんね。駐車場はふえていますよ。あの駐車場については全部国交省がやってくれる。しかし、阿久根市が陳情をしたとかしないとかいう経緯はないんですか。駐車場の拡充についてとか。舗装のきれいなところは新しくできたところですよもんね。

(発言する者あり)

#### **仮屋園一徳委員長**

休憩に入ります。

(休憩 11:03～11:12)

#### **仮屋園一徳委員長**

休憩前に引き続き、再開いたします。

#### **山田勝委員**

先ほどのね、途中ですけれども、今、私が言ったでしょ。こうこういうあなた方が要望を、あるいは陳情をしてそれが具体的にどういうふうの実現されましたかって挙げることができるか。

#### **堂之下商工観光課長**

直近でいえば身障者トイレの改修と、あと時計が壊れたままになってたものですから、その撤去はしていただいたところでございます。あといろんな、そのほかにも国交省関連の部分の要望はいたしておりますが、今ここで何と何というふうになんて申し上げることはできません。



**山田勝委員**

私が言ってみてね、びっくりしたのはとにかく駐車場が充実されましたね。新しい、舗装の新しいところはね、後からつくった駐車場だと思いますもんね、北側の、向こう側の、北側の駐車場、ほんとに10台ぐらいの駐車場をつくってくれましたよね。それと電気の充電施設、自動車の、電気自動車の充電施設も国交省がつくってやったんですよ。誰がつくったの。

**堂之下商工観光課長**

あれは阿久根市で整備しようということで考えていたんですけれども、民間業者が国の補助金を受けてつくってくれて、阿久根市としては電気代の基本料を支払うという形をとっております。最初は阿久根市で補助金をもらってつけようと思っていたんですけれども、そっちのほうの方が安くつくということで。

**山田勝委員**

あれは電気自動車の充電施設ですか。

**堂之下商工観光課長**

はい、そうです。

**山田勝委員**

現在、電気自動車の充電施設を使って充電した自動車とか、それに対する対価は、料金は誰がどうして取るんですか。

**堂之下商工観光課長**

利用者がカードを使って充電しますので、それによって支払っています。阿久根市としては基本料金部分を、負担をして、利用が多ければ幾らか阿久根市に返ってくるという形になっています。

**山田勝委員**

今、現在の状況からすればですね、電気自動車の普及が目に見えているような状況の中ですね、やはり非常によかったなと思ってるんですよ。ところがそういうふうになったら1カ所じゃ足りないなという時代もね、喫緊あわれてくると思うんですが、あれを設置したのはいつで、全然阿久根市に収入はないんですか。

**堂之下商工観光課長**

平成28年度に設置をいたしております。6カ月経過後から入ってくると聞いてましたけれども、ことし10月くらいには入る予定でいたしております。

**山田勝委員**

そしたら、今現在どのような利用状況で何台くらい利用したというのはわからないんですね。

**堂之下商工観光課長**

そこは聞いてみればわかると思います。

**山田勝委員**

誰に聞くんですか。

**堂之下商工観光課長**

設置をした会社に。

**山田勝委員**

非常にいいかなと思ってですね、今後はもっとふえるかなという気持ちと、それからやはりね、道の駅にそういうものがあるというのもやはりアピールせないかなと思いますよ。そういうことで今後は進んでいくと思うんですが、あわせてですね、課長の話を

ずっと聞いてますと、改修はするけれども大きな金をかけないで安い改修費でしかないということですか。計画はしていない。

#### 堂之下商工観光課長

そこはなかなか難しいところもあります。補助金等いろんな活用できるものは探してきましたと思っていますが、今、現段階でできるところからやっていきたいというふうに考えております。

#### 山田勝委員

現段階でできるところからやっていきますよということはですね、イコールこそくだということですよ。一つ、それなら絵を描いて、今、濱崎委員が言いましたよね、絵を描いて、例えば食堂部分をひっくるめて売り場面積にしますよと。そして阿久根市の産物を全部皆さんののを売れるようなそういう場所にしたいということはやっぱりね、絶対考えていかないかんことでもんね。そういう中で、最低でもこれぐらいの拡充はせないかんという絵は描かないんですか。こそくだですか。絵を描くのどこそくだは相当の差がありますよ。

#### 堂之下商工観光課長

今年度、物産館等検討会議を開催する予定で予算をいただいておりますので、一応その中で検討していきたいというふうに考えております。

#### 山田勝委員

ぜひですね、市長の話を聞きますとね、市長は商工観光課と公社にですね、丸投げするような話をしたから、丸投げするんですかって、いやそうじゃない。ですから市長、あなたはどうか考えるんですかっていうことが非常に大事だと思うんですよ。ですからせつかく、何でかって言ったら、また20年後、30年後でないとこの計画はできないわけです。事業もできないわけですよ。ですからちゃんとした絵を描いて皆さん方の意見も聞きながらですね、ちゃんとした絵を描いて、そして事業を進めるに至っては国県の補助をもらえるものはですね、探して、そしてやはり進めてほしいと私は思います。ですから、そういうことでぜひしてください。

#### 仮屋園一徳委員長

ほかにありませんか。

#### 野畑直委員

今、南九州西回り自動車道がですね、鹿児島から水引、そして阿久根の鶴川内から高尾野まで開通しておりますので、これまでの、先ほど昨年度の売上高が1億2,400万円ということでしたけれども、これまでの過去10年ぐらいさかのぼっての売上高、あるいはそのレジ通過者数等のデータがあれば後で資料としてでもいいですけども、そういうので分析すべきかなと思っているんですが、今、答えがすぐ出なくてもいいですけども、また11月12日に出水まで開通する予定ですよ。そうならばますますこちらのほうに車が流れてくるのではないかと思われまますので、その辺もやはり注視しながら考え方というのも違ってくると思いますので、そのデータを後で出してもらいたいんですが。

#### 堂之下商工観光課長

後で提出したいと思います。

#### 野畑直委員

資料としてお願いします。

#### 中面幸人委員

先ほど電気自動車ですね、充電施設について話がありましたけれども、ちょっとわからないんですけれども、例えば敷地は国交省ですよ。設置は民間の方と。そして基本料金は阿久根市が払っていると。多分使用料金については設置者である民間の方に行くと思うんだけど、その仕組みはどうなってるんですかね。

#### 堂之下商工観光課長

近年、国交省のほうが道の駅の機能拡充ということがありまして、阿久根市の道の駅についてもいろんな機能を持たせないといけないということで計画をいたしまして、阿久根市として充電施設をつくろうというふうに最初考えておりました。その中で日本充電インフラという会社だと思えるんですけども、そこが国の外郭団体みたいなものですけども、国の補助金を受けてつくってあげますよというお話がありまして、そうすると市が何百万も出して設置するよりはそちらのほうが出す負担が少ないということになりましたので、そこにつくっていただいとこのところでございます。

#### 中面幸人委員

そうしたときに、例えば条件として自治体のほうが基本料金は払うというそういうふうな条項になってるんですか。

#### 堂之下商工観光課長

そうです。

#### 中面幸人委員

わかりました。

#### 白石純一委員

今までも各委員会から、委員の中からですね、大きなビジョンというか、目的意識を持って将来長い目で見てどうしていくかということも出てきました。その中で私も前回の本会議でも申したんですが、あそこを拠点にしてですね、周りにも観光資源がたくさんあると思うんです。もちろん安全性の問題もチェックしなきゃいけないんですが、すぐ道の駅から入ろうと思えばアクセスが可能な旧国鉄のトンネル、そしてそこを抜けていくと尻無の七不思議。そしてまた海岸沿いに、先ほど言った駐車場も利用すれば散策しながら海沿いを帰って来れると。あるいは上のほうに、山頂のほうにアクセスができれば松岡神社、すばらしい景色があり、その向こう側には薩摩街道が通っており、そこを下りていくと坂本龍馬が宿泊したのではないかといわれているお寺。そしてその先には今回整備された古民家を利用したですね、寄合所。そういうところを散策する一つの拠点にできると思うんですけども、そういったお考えは課長のほうでお持ちでしょうか。

#### 堂之下商工観光課長

道の駅がそういった機能を持つべきだというふうに考えておりますし、また大川から牛之浜にかけて景勝地でもあり旧薩摩街道もあるということで、そちらのほうの活用というのでも考えていこうというふうに思っております。やはり道の駅を入り口として、そこから市内の観光にどう誘導していくかというのを考えていく必要があるというふうに思っております。

#### 仮屋園一徳委員

ほかにありませんか。

#### 山田勝委員

例えば現在の道の駅の南側をね、入り口にできないか、今閉まっていますね。あそこをね、一つの入り口にして、そしてイコール休憩所のほうに行けるというようなそういう

こともできないのか、できるのか、あるいは、これはやはり考えてほしいなと思うんですよ。どうしたほうがいいのか。閉めたままのほうがいいのか開けたほうがいいのか。

#### 堂之下商工観光課長

たしか建設当初は多分そこは通路になっていたと思うんですが、やはり物産館の中での保安上の問題というか品物を持ち帰ってしまうような方がいらっしゃるということで多分締め切ってあるというふうに考えております。ただ、利用者にとってどのような使い方がいいのかということも含めて、また売り場の陳列の仕方とかそういった改善も含めたところでそこももう一度考えてみたいというふうに思っております。

#### 山田勝委員

お願いします。

#### 仮屋園一徳委員長

ほかにありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

なければ以上で商工観光課との協議を終了いたします。

商工観光課は退室されて結構です。ありがとうございました。

(商工観光課 退室)

#### 仮屋園一徳委員長

ここで休憩に入ります。

(休憩 11:25～11:29)

#### 仮屋園一徳委員長

休憩前に引き続き、委員会を開会いたします。

ただいま商工観光課との協議が終わりましたが、委員の皆様から御意見があればお聞かせください。

#### 山田勝委員

私はですね、現在、阿久根に出店している阿久根の業者がいらっしゃいますよ。そういう方々だけでもいいですからね、委員会に出席していただいて、観光連盟の会員、どこでも何でもいいんですけどね、いただいて意見を聞くということも大事だと思います。参加していただいて意見を聞く。そうしないとね、実際の話が部分的に聞いているだけじゃないですか。部分的には、例えば持っていたてもなって、スペースを置く場所もなかもんでちょこちょこ持っていく。うんどま、あてにしとらんとなという人もおったつで。鹿児島県内のほかのところの業者のところは多してな、うんどが出せばちっとしかなかっじゃつでやという業者もいるわけ。だから、そういうことで、やはりそういう業者の方々を呼んで、こっちから行たてもよか、話し合いをする機会をぜひつくってほしい。

#### 仮屋園一徳委員長

ほかに。

#### 野畑直委員

先ほど売上高等について資料を請求しておりますけれども、今ですね、今度出水まで11月12日に開通するという事も聞いておまして、今、3号線の交通量等についてどんどんふえてきていますので、今度新しく道の駅の要望をやっておりますけれども、交通量調査も3号線が行われてると思うんですが、その辺のデータについても、もらえ

るものかわかりませんが、シビアにそういうデータを集めるべきだと思います。そうしないと新しい道の駅との関連について交通量がふえてるんだとか、そういう道の駅の売上高もこのように推移してきたというふうに分析するデータとなるとと思いますので、できれば交通量調査も行われていると思いますので、その辺も調べてしっかりと推移を見守っていかなければいけないと思いますので、そこら辺を敏感に動いてもらいたいと思いますけれども。

#### **仮屋園一徳委員長**

今の意見は、交通量調査をしている分については出してもらうのと、もし、していないということであれば今後交通量調査をするべきじゃないかという要望ですね。

#### **野畑直委員**

交通量調査は3号線は行われていると思うんですけど、何年か毎なのかそれはわかりませんが、それは国交省が3号線の交通量等は実施していると思いますよ。

#### **仮屋園一徳委員長**

してはいるんですけど、要望の場所でどうなのか。それが満足する、折口の389の入り口とかはしているのを見ますけど、ただ道の駅関連のところの調査をしているのかどうか、その辺は聞いてみます。

#### **野畑直委員**

私が言っているのは、3号線の交通量の動きということで、別にあまり流れ的には変わらないと思いますので、この辺の阿久根市内の交通量だからその推移についてはやはり以前とすればどうだったのかというのはやっぱり出てくるとと思いますので、何も道の駅のすぐ近くの交通量でなくてもいいと思いますので、やはり全体的な阿久根市の交通量の動きというのもわかると思いますので、そのデータでいいと思いますよ。

#### **濱崎國治委員**

先ほどいろいろ意見が出たのをまとめてほしいんですが、先ほど委員長が何か方向性をおっしゃいましたので、先ほど出た意見の中でですよ、いろんな意見があったですよ。改造する方法、物産館と3号線の間スペースに何かとか、あるいは南側の駐車場をこうしたらどうかとか、あるいはレストラン部分をして物販スペースをもっと広げている必要があるんじゃないかとかいろんなパターンをですね、執行部に検討してほしいんですよ。こういうパターンでこうしたらこうなるこうなるというのをですね、ぜひ具体的にですね、青写真をつくってほしいなという気がします。それによってそれぞれ議会のほうにも報告をしていただいでですね、このパターンだったらこうなるこうなるということですね、ぜひそういう青写真をですね、何通りも青写真をですね、ぜひつくってほしいなと思います。

#### **白石純一委員**

今の濱崎委員の意見と大変似ているんですけど、二つの考え方、大きく分けると濱崎委員のおっしゃることも大きく二つに分けられる。一つは既存の建物、既存の駐車スペースを大きく拡充はしないで既存のものでどういうふうに内部のレイアウトの変更だとかですね、そういったことで既存のもので何かできるのかということと、もう一方では建物、そして駐車スペースの拡充というかなり財源も絡んできますので、そういったことも含めて長期的な見方になると思いますので、最終的にはこういうことも考えられるんだよという長期にわたってお金もかかりますけれどもそういった青写真をですね、考えていただいて、またそれについては今度の新しい牛之浜道の駅、そこにどういう商業施設ができるのか、できないのかとの関係性も当然絡んできますので、そういったこと



当然、議長名で出しますけれども、ちょっとまとめてみたいと思います。

[「はい」「お願いします」と呼ぶ者あり]

ほかに御意見はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

なければ、道の駅の件については以上で終わりたいと思います。

ほかに委員に皆さんからありませんか。

それではですね、もうちょっと時間があるんですが、所管事務調査についてお諮りをしたいと思います。どういったものを調査したいかというのと、それと日程的なもの、二つをばお諮りしたいと思います。もし委員の皆さんから調査したいと。

#### **岩崎健二委員**

日程的なものについては、先方のこともありますのでそこは委員長と事務局でしていただければ結構かと思うんですが、以前、椿油の件についての所管事務調査をお願いしたことがあったと思うんですが、できたらそこらを早く行ってみたいなど思っていますがいかがですかね。

#### **仮屋園一徳委員**

休憩に入ります。

(休憩 11:41～11:43)

#### **仮屋園一徳委員長**

休憩前に引き続き、委員会を開会いたします。

#### **中面幸人委員**

この間、小里代議員と意見交換をしたときにですね、例えば農業振興の中で始良市がそういう飼料米とかWCSとかそういうやつなんかをやっているということだったので、やっぱり調査すべきじゃないかと思うんですが。

#### **山田勝委員**

始良市を調査する前に、昼からその調査に、農協に行ったって、それが済んでから考えないかなよ。

(発言する者あり)

#### **仮屋園一徳委員長**

今、意見が出ましたので、今、言われたように午後からの調査を終った時点でどうするかは結論を出したいと思います。ほかに。

#### **白石純一委員**

これもそうなんでしょうけれども、きょう、午後からグラスボートの港に係留されているのは見れるということなので、それを見た後にですね、実際、阿久根の海でどういところでサンゴとか魚等が見れるのか、実際にできれば視察させていただくと。もしそれがかなわないのであれば、牛深で同じようなボートがあると私は理解していますので、そちらのほうも代替的には視察できるのかなとは考えております。

#### **仮屋園一徳委員長**

グラスボートの件については、午後から船は視察をしますけど、調査についても続けていきたいという御意見ですが、それでよろしいですか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

では、そういういことで、日程につきましては岩崎委員からありましたように、年内

にするのか、2月になるのかその辺はこちらで調整をさせていただきたいと思います。以上で午前中の部の委員会を終了し、午後からの現地調査はバスで移動しますので午後1時までに市役所正面玄関前に集合をお願いします。なお、現地調査終了後に委員会を開会し、委員の方から意見を伺いますのでよろしくお願い致します。以上で午前中の部を終わります。

(休憩 12:00～13:00)

(現地調査 13:00～15:35)

#### 仮屋園一徳委員長

現地調査前に引き続き、委員会を再開いたします。

現地調査を行いました。委員の方から何か意見等ありませんか。

#### 中面幸人委員

米づくりについてですね、出水管内の事情、いろんな説明を受けて勉強になりましたが、同じJAだから一緒かもしれんけど、この間、先ほど言われましたように小里代議士の話で始良地区においてよくやっているとことでしたので、一回地域で同じなのか違うのか、またいいところがあるかもしれんから、ぜひやっぱりこのままじゃなくて始良のほうも視察を試みたいと思うんですがいかがでしょうか。

#### 仮屋園一徳委員長

ほかの委員の方から、今の意見に対して。ありませんか。始良ということなんですけど、実際にどうかははっきりとしませんので、今、中面委員から意見がありましたので調査をした上、そのような場所であれば報告をしたいと思います。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

ほかにありますか。

(発言する者あり)

休憩に入ります。

(休憩 15:35～15:36)

#### 仮屋園一徳委員長

休憩前に引き続き、会議を開きます。

そのほか御意見はありませんか。

#### 岩崎健二委員

海を生かしたまちづくり、観光行政についてということでグラスボート、あるいは船を見させていただきました。それについては非常に手間取っているようですので、所管事務調査として所管課を呼んでそこあたりのいきさつ、あるいは協力できるようなものが何があるのかというのを早急にしてもらえればと思います。

#### 仮屋園一徳委員長

ほかの委員の方は、今の意見に対して。

#### 白石純一委員

それに関して、できればですね、阿久根にどういった見どころ、サンゴがあるのか、船で見ればもっと実感がわくんじゃないかとも思います。

#### 山田勝委員



担当課を呼んで、フェリーの棧橋を使わせれば問題はなかんじゃっどが。ところがこの問題についてはね、使わせるよと仮に言えない理由はね、あのグラスボートに対する位置づけをどうしているかというところがね、一番大きな問題だと思うよ。だから阿久根市の一つの政策の一つとしてそれをするがって、みんな協力してやらなよって言えば4課まとまってすぐまとまるけど、4課まとまらんとはそこがはっきりしとらんでやっで、簡単なことは。そのためには、例えば市長、副市長も呼んで、そしてから話をしないと、見学するよりもそれが先やっど。そうしないと型はつかない。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

#### **仮屋園一徳委員長**

今、意見があったように、市長も含めた所管課を呼んでの調査ということにしたいと。ほかに御意見ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ほかになければ、本日の産業厚生委員会を閉会いたします。

(閉会 15時37分)

産業厚生委員会委員長 仮屋園 一徳